

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		6,358,936	t-CO ₂
①を除外 （二酸化炭素換算） 温室効果ガス排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素	19,181	t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		6,378,117	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度 目標排出量		目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂	

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度 目標排出量		目標削減率	
	原単位当たりの 排出量	0.3779	kg-CO ₂ / kWh	0.3779	kg-CO ₂ / kWh	0.0

(2) 目標設定の考え方

火力発電所では、天候、お客さまの電気の使用事情に加え、当社全体での効率的な設備の運用結果によって発電電力量が増減し、それに伴いCO₂排出量も増減します。このため、自らの削減努力が反映可能な原単位として、発電電力量kWhあたりのCO₂排出量を目標としました。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

指針第1号様式

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の推進（照明、OA機器、その他）	昼休み、退社時、不使用時の照明切、OA機器の電源切により所内電力を削減する。	—
省エネルギー・省資源の推進（冷暖房〔空調負荷低減〕）	事務所内の空調温度を適正にする。	夏場：冷房28℃（6月～10月） 冬場：暖房20℃（11月～5月）
工場等の製造工程における対策	発電設備の性能向上施策を検討し、実施する。	—
省エネルギー・省資源の推進（その他）	職場・家庭等において、階段利用、自転車・徒歩利用などCO2削減に関する行動を個人で実践する。	—
廃棄物の排出抑制	コピー用紙の効率的活用（両面コピー・縮小コピー）、事務所内のゴミ分別を徹底する。	—
自動車利用における取組	次世代自動車（電気自動車）の導入・利用推進	—

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

<ul style="list-style-type: none">・ 文房具類のグリーン購入の推進・ 社員、従業員等への定期的な環境教育の実施

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

<ul style="list-style-type: none">・ 「N〇時間外ウィーク」、「N〇時間外デー」を設定し、定時退社に努める。・ 夏季軽装 (クールビズ) を徹底する。
